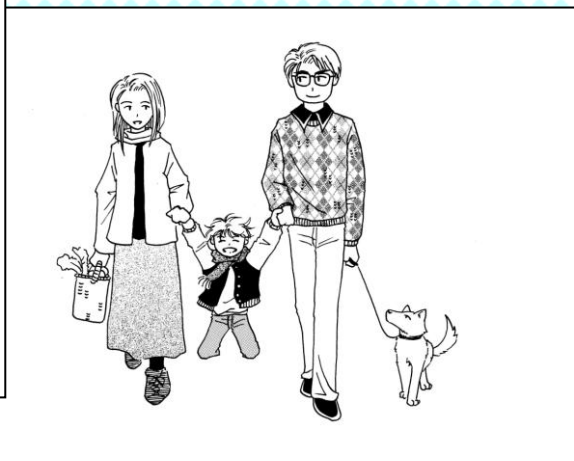
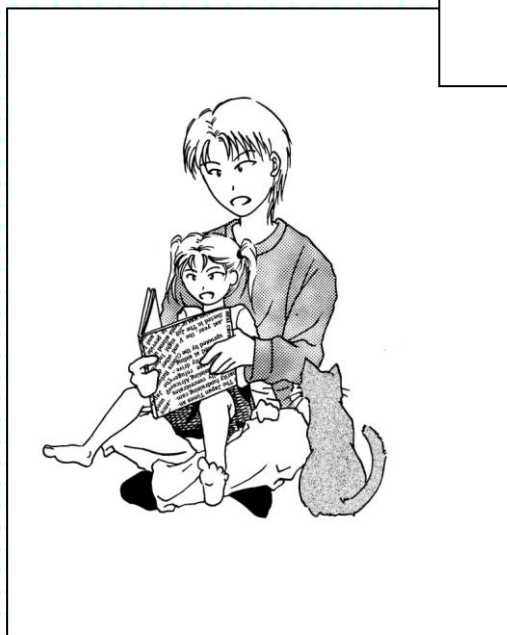


# ブックリスト

## 家族を描いた絵本



**東村山市立図書館 発行**  
**平成18年(2006年)7月**

## 図書館で

# 絵本の魅力を再発見してみませんか？

- このブックリストは、講座「絵本のなかの家族」（主催 東村山いきいきシニア）をもとに作成しました。
- 図書館は、講座の企画・使用する本の選択・本の紹介等をお手伝いしました。
- 「家族の姿を描いた12冊」「家族を考えるきっかけになる16冊」として、子どもと一緒に楽しめる本、大人が読んで味わい深い本などを紹介しています。
- 東村山市の家族についての統計資料も併せて掲載しています。“家族”を考えるきっかけになれば幸いです。
  - 紹介した本は、図書館で借りられます。
  - リクエスト（予約）もできますので、ぜひご利用下さい。
  - 図書館では、講座やイベント等で使う本の選択についてご相談をお受けしています。
  - グループへの貸出もできますので、ご利用下さい。
  - 東村山に関する資料を収集・保存しています。調べもののお手伝いもいたしますので、ご相談下さい。

## 講座「絵本のなかの家族」

多世代交流講座「いきいき大学講座」第4弾！

**絵本のなかの家族**  
～家族のあり方を見つめよう～

第1回10月18日（火）  
絵本の世界をのぞいてみよう

第2回11月1日（火）  
絵本をつかったワークショップ

第3回11月15日（火）  
私のおすすめ！“絵本のなかのこんな家族”

講師：東村山市立図書館職員

主催：東村山いきいきシニア  
共催：東村山市社会福祉協議会  
HUGこどもパートナーズ  
協力：東村山市立図書館

2005年  
10月～11月  
開催

2005年に行なった講座です。絵本には、親子関係、老人の姿などが何気ない日常のひとつこまとして描かれているものがたくさんあります。絵本を味わいながら家族のあり方について意見を交わし、楽しいひとときを過ごしました。20～70代まで、約20名のかたが参加しました。

### 素晴らしい出会いを今後につなげたい

東村山いきいきシニア代表 下地恵得

かつて、おじいさんやおばあさんを含む多世代同居の中で、生活の知恵は伝わり、暮らしのしぐさは言わず語りに受け継がれていきました。つまり文化の継承です。しかし、核家族化で、この世代間の連鎖が切れてしまっています。

これは、不幸なことです。何とかこの歪みを正していけないものか、そんな思いに押されて、若い世代とお年寄り世代の会う場として「絵本のなかの家族」講座が企画されました。スタッフ手作りの講座は大成功でした。両世代が絵本を介して、共に学び熱く語り合ったことは、それぞれに得難い体験となったとの感想しきりでした。この素晴らしい出会いを今後につなげたいものです。

開講に当たり多大のご協力を戴いた東村山市立図書館の館長様を始め、職員の皆様に深く御礼を申し上げます。

# ① 家族の姿を描いた12冊

【講座では】新しい家族を迎える喜び、親子の関係、父親母親の姿、老いること、死ぬこと……いろいろな家族のあり方を描いた12冊をブックトークで紹介しました。絵本は子どもだけのものではありません。子どもと何気なく楽しんでいた絵本も、意識して味わうと、また違った面を見せてくれます。20代から70代まで幅広い年齢層の参加者の感想も掲載します。



## うちにあかちゃんがうまれるの

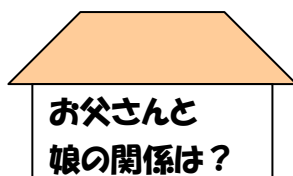
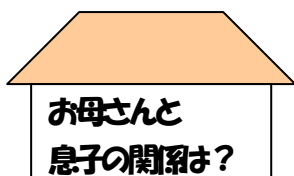
いとうえみこ／文 伊藤泰寛／写真  
ポプラ社 2004年

6才のまなかちゃんという女の子の目から見た文章でつづられています。まなかちゃんの家はお父さん、お母さん、お兄ちゃん2人、まなかちゃん、ともう既に大家族ですが、もう一人赤ちゃんが生まれることになりました。いよいよ陣痛のその日、家族みんなで赤ちゃんを迎えます。新しいいのちの尊さと赤ちゃんを迎える家族の喜びが伝わります。自宅出産の様子を写真で描いた絵本です。

助産院で出産したばかりの友人がいたので、この本を見せたら、感動して泣いていました。

子どもに読んで聞かせたら、へその緒が見たいと言ったので、見せてあげました。

子どもが赤ちゃんだった時のこと、子育てが大変で悩んでいたことが切なく思い出されます。よそのお子さんや子育て中のお母さんを大切にしてあげたいと思います。



**たまごにいちゃん**  
あきやただし／作・絵  
鈴木出版 2001年

たまごにいちゃんは、殻から出てひよこになる時期なのに、いつまでも出てきません。弟に先を越されても平気。まだまだお母さんに甘えていたいです。そんなある日、殻にヒビが入ってしまい…。

なかなか自立できない甘えん坊の男の子と、それを受け止めるお母さんの姿が共感を呼びます。ユーモラスな絵が子どもに大人気のシリーズ。

4歳の息子がとても気に入って、何度も読まされました。今の自分と息子の状況と同じだなと思いました。

**たまごねえちゃん**  
あきやただし／作・絵  
鈴木出版 2005年

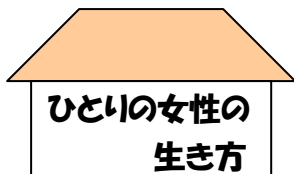
たまごねえちゃんも、殻から出ずに、まだたまごのままです。お父さんに甘えて、わがままのし放題。お父さんを試したりしています。でも、お父さんはそんなたまごねえちゃんがかわいくて仕方ありません。ところが、とうとうお父さんのために自分から殻をバリッと割ってしまい…。

6歳のひとり娘とパパの関係がまさしくこの本の通り。少し厳しくしてほしいと思っているのに、かわいくてベッタリ。娘もそのうち自分から殻を破って成長してほしい、と思っています。

\* 『たまごにいちゃん』のシリーズは他にもあります。

『がんばる！たまごにいちゃん』2003年

『ごんにちはたまごにいちゃん』2004年



## ハルばあちゃんの手

山中恒／文 木下晋／絵

福音館書店 2005年

海辺の小さな村で生まれたハル。手先が器用なハルは、花かごを編んでいる時ひとりの男の子と出会います。その後、15歳の時両親が他界、ハルは一家の働き手として苦勞します。唯一の楽しみは盆踊り。そこであの時の男の子ユウキチと再会し、2人は結婚して町で小さなケーキ屋を営みます。月日が過ぎ、子どもたちも独立、夫も亡くなり、一人になったハルは故郷の村に戻ります。

ひとりの女性の一生が、深い言葉とリアリティーあふれる鉛筆画で描かれます。

「手にほくろのある人は幸せな人生を送れる」という言い伝えのように、ハルばあちゃんは幸せな一生を送れてよかったと思いました。

父も手が器用で、学校の工作や絵など何でも手伝ってくれ、上手に出来すぎてしまい恥ずかしいようでした。戦時中ものがなくて、印半纏で子どもたちの足袋を縫ってくれたり、遠足の日にはかんぴょうののり巻きを巻いてくれたり…。母の手で思い出すのは、背中がかゆい時に、ザラザラした手を首から入れてさすってくれ、気持ちのよかったこと。また、夕食の片付けのあと、火鉢の灰の中で火箸を熱くしてアカ切れの薬をとかして、指先の割れたところへ詰めていたことなど…そんなことをこの本を読んで思い出しました。

## ぼくのおばあちゃんのはしわしわだぞ

そうまこうへい／作・絵

架空社 1999年

おばあちゃんの手のはしわは、おばあちゃんが長い間、子育てや家事に大活躍した証拠です。孫のしゅうへいから見た自慢のおばあちゃんの絵本です。



## もったいないばあさん

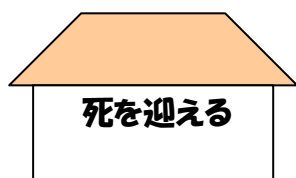
真珠まりこ／作・絵 講談社 2004年

2歳の孫に受けました。私もみかんの皮を干しています。

子どもが大喜び。昔、おばあちゃんに言われたことを思い出しました。

ごはんを残すともったいないばあさんがやってきて、「もったいなーい」と食べてしまう。お水を出しっぱなしにしても「もったいなーい」と怒られる。ぼくが泣き出したら「おやおやなみだがもったいないよ」

楽しみながら、“もったいない”が身に付く絵本です。



## さよならエルマおばあさん

大塚敦子／写真・文 小学館 2000年

“死”を知るのに、どんな年齢の人が読んでもよい本だと思いました。

エルマおばあさんがガンの告知を受けてから亡くなるまでの日々を、愛猫スターキティの目を通して語っています。自分の命が残り少ないことを知ったエルマおばあさんは、今まで通りの生活を楽しみながら、死を迎える準備を始めます。やがて、家族が見守る中、静かに息を引き取ります。

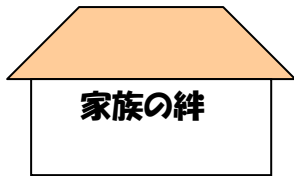
モノクロの写真絵本です。

## わすれられないおくいもの

スーザン・バーレイ／作・絵 小川仁央／訳 評論社 1986年

アナグマはもの知りで、いつも困った人を助け、みんなに頼りにされていました。大変年を取っていたので、死ぬのがそう遠くないことも知っていました。ある日、アナグマがひっそりと息を引き取ると、友だちはたいそう悲しみます。でも、やがてみんなは気付くのです。アナグマは死んでしまったけれど、アナグマはみんなの中に思い出を残してくれたことを。

自分も高齢なので死を身近に感じています。物語の中に、“永遠性”がさりげなく提起されている本でした。  
子育ての過程ではいろいろなことがあります。高齢者の問題を考えていくと、最後は子どもの問題に行き着くのではないのでしょうか。



## かあさんのいす

ベラB. ウィリアムズ/作・絵 佐野洋子/訳 あかね書房 1984年

主人公の女の子は、お母さん、おばあちゃんとの3人暮らし。大きなびんにお金をためています。食堂で働くお母さんがもらったチップ、おばあちゃんが安売りで得したお金など、小銭を少しずつ入れています。びんがいっぱいになったら、すてきな椅子を買うのです。少し前の火事で、家にあったものはぜんぶ焼けてしまったからです。家族で困難を乗り越えるお話です。

色彩豊かでいかにも外国の絵本という感じです。



## ぎゅうぎゅうかぞく

ねじめ正一/作 つちだのぶこ/絵 鈴木出版 2002年

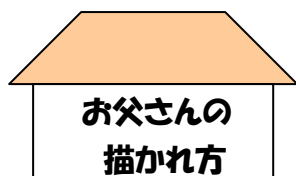
としお君のうちは八百屋さん。ぼくがとしお君ちに行くと、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん、お兄ちゃん、お姉ちゃん、としお君の妹、それにとしお君のおじさん、おばさんにその赤ちゃんがいて、最後にやっとなしお君が出てきた。

友だちのぼくを通して紹介される大家族の面々が、あったかくてほのぼのする絵本です。

おおぜいの人とかかわることのできる大家族が素敵です。

9人の大家族で育ちました。今は核家族なので子どもに大家族の良さを味わわせてあげられなくて残念です。





## おりょうりとうさん

さとうわきこ／作・絵 フレーベル館 1976年

「きょうはとうさんがおりょうりしよう」お休みの日、お父さんがカレーライスを作ろうとすると、なべや野菜が「とうさんじゃ いやだいやだ」と逃げ出してしまう。得意の投網で連れ戻し、お料理をするのですが、出来上がると今度は家族も逃げ出します。ところが食べてみると…。

男の人が料理をするのが珍しい、少し前の時代に描かれた絵本です。



## ママがおうちにかえってくる！

2004年

トメク・ボガツキ／絵 ケイト・バンクス／文 木坂涼／訳 講談社

ママが仕事を終えて大急ぎで家に帰ります。混雑する街を抜け、地下鉄に乗り、駅を出て、雨と雷の中、タッタカ タッタカ急ぎます。一方、家ではパパが大忙し。夕食のピザを作り、ぼうやにミルクをやり、部屋を片付け、食卓の準備。さあ、やっと家族揃って晩ご飯！

お母さんが外で働き、お父さんが家事と育児をする家族の絵本です。

お父さんが家事育児をゆとりを持ってこなしていて感心しました。余裕がなかった自分を振り返って反省しています。楽しい絵本で、こんなお父さん、こんな夫だったらなあと思いました。

## ②家族を考えるきっかけになる16冊

【講座では】同じ“家族”というテーマでも、いろいろな父親像・母親像があり、子どもとの関係、ひいては男性・女性の役割など、様々な描かれ方の絵本がありました。出版された年代、日本か外国かによって違いがあるのも興味深いことでした。講座では特に16冊の絵本を取り上げて、異年齢の方が混ざったグループでいろいろな意見や感想を出し合いました。

### 家事はママだけのもの？ 結末その1

30年くらい前の  
発行

#### 『ままはいつでもいそがしい』

ながさきげんのすけ/ぶん にしまきかやこ/え 偕成社 1978年

ぶたのママは、やりっぱなしのパパとこぶたたちにふんぶんしながらも、一人だけで家事をこなす。ある時、ママが風邪で寝込んでしまうと、パパとこぶたたちは料理、洗濯に一生懸命。ママはこれなら治った後も少しのんびり…と思うけれど、失敗ばかりの家族の様子にやっぱり寝てはられず、忙しい日々に戻り。ああ、ママはいつだって忙しい。

### 家事はママだけのもの？ 結末その2

イギリスの  
作家

#### 『おんぶはこりごり』

アンソニー・ブラウン/作 藤本朝巳/訳 平凡社 2005年

家族の世話を明け暮れるビゴット夫人は、感謝の気持ちのない夫と子どもたちにうんざりして、突然家を出てしまう。残されたパパと子どもたちは不自由な生活を強いられ、へとへとになったところにママが帰宅。「おかえりなさいませ、おかあさま」それからは、パパと息子たちは楽しみながら家事をこなせるようになり、「ママだって車の修理ができるのよ」と、活躍の場を広げる。ママはしあわせ。

## 赤ちゃんを迎え育てる父親のドキドキ

### 『ぼくがあかちゃんだったとき』

浜田桂子/さく・え 教育画劇 2000年

6歳の誕生日に父親が息子をひざに乗せて、誕生から歩けるようになるまでのことを話して聞かせる。初めて息子を見た時「からだがかかかして不思議な気持ちでした。だって、地球のどこにもいなかった君が、今、目の前にいる」誕生直後の気持ちや、父親が料理・オムツ交換に悪戦苦闘する姿、初めて歩いた時の喜びなどが描かれ、あたたかい気持ちが伝わる。

## パパの子育て

### 『おやすみアルフォンス！』

スウェーデン  
20年以上前

グニッラ=ベリィストロム/さく やまのうちきよこ/やく 偕成社 1981年

アルフォンスは4才の男の子。夜遅くなっても眠れないので、「パパア、おはなしの本よんで！」「パパア、はをみがくのわすれちゃった！」「パパア、のどがかわいちゃった」「パパア、ジュースこぼしちゃった」と次々パパにねだります。やさしいパパは、そのたびに願いをかなえてあげます。でも、アルフォンスがあまりにいろいろなことを言うので、パパはくたびれて床の上で寝てしまいます。そんなパパに毛布をかけるアルフォンス。そして、アルフォンスもとうとう眠くなり、一人で寝ることができました。

### 『パパと10にんのこども』

フランスの女流作家

ベネディクト・ゲッティエール/作 那須田淳/訳 ひくまの出版 2001年  
<フランス>

パパには10人の子どもがいます。毎朝子どものために10人分の朝ごはんを作って、10人分の着替えをさせ、10人を車に乗せて学校に送ってから会社に行きます。帰るとお風呂に入れて、夕食を作って、寝かしつけます。あーあ、くたびれた。たまには一人になりたいな。パパはある日ふねを作って一人で旅に出てしまいます。けれど、のんびり過ごした後には、やっぱりいつものように10人分の朝ごはんを用意してしまうパパ。「おーい、みんなあさごはんだよー！」今度はみんな一緒にふねで冒険に出かけよう。

## 大きくて強い！理想のお父さん？

### 『まめうしのおとうさん』

あきやまただし/作・絵 PHP研究所 1998年

まめうしくんのおとうさんはとにかく大きい。しっぽも、うんこも、つのだってこんなに大きい。とっても強くって、まめうしくんが困っているとすぐ助けてくれる。おとうさんてすごい。でも、おかあさんが教えてくれた。おとうさんも子どもの頃は、あなたより小さくて泣き虫だったのよ。そうか、ぼくもおとうさんみたいに大きく強くなれるんだな。

## 父と息子 父の仕事

## とうちゃんを支えるかあちゃん

### 『とうちゃんはかんぱんや』

平田昌広/作 野村たかあき/絵 教育画劇 2005年

とうちゃんの描く看板はカッコいい。ラーメン屋も花屋もみんなとうちゃんの看板だ。ときどき飲んでよっぱらうから、かあちゃんとぼくはとうちゃんを迎えに行く。ごきげんでかあちゃんに寄りかかるとうちゃん。そんなとうちゃんだけど、ぼくもかあちゃんもとうちゃんが好きなんだ。ぼくもとうちゃんみたいな看板屋になりたい。

## 父と息子 新しいものを受け入れる

### 『ぼくたちおやこはだいくさん』

アンネ・マール/文 パウル・マール/絵 新井さやか/訳 徳間書店 1999年  
<ドイツ>

ビーバーのバルタザルは、腕利きの大工で家造りの名人。息子のベンも大工の卵です。ある日、ベンはお父さんの反対を押し切って高い塔を建てます。もの珍しい塔はたちまち人気になり、お父さんはおもしろくありません。とうとう2人は大げんかして離れて暮らすことに。ところが、嵐がやってきてお父さんの家は流され、ベンの塔は倒れてしまいます。2人はやっと認め合い、力を合わせて新しい家を建てることができました。

## おじいちゃんはすごい!

### 『おじいさんならできる』

フィービ・ギルマン/作・絵 芦田ルリ/訳 福音館書店 1998年  
<カナダ>

おじいちゃんが赤ちゃんのヨゼフにくれた青いブランケット。ヨゼフの成長に合わせて、ブランケットが破れたらジャケットに、小さくなったらベストにと、おじいちゃんが作り直してくれます。そのうちネクタイになり、ハンカチになり、ボタンになり…。お気に入りのブランケットはいつまでもヨゼフの身近にありました。物語に並行して、絵の中には床下のねずみたちの暮らしぶりも描かれています。

### 『しょうたとなっとう』

星川ひろ子 星川治雄/写真・文 小泉武夫/原案・監修 ポプラ社 2003年

5才のしょうたは納豆が大嫌い。ある日、おじいちゃんの畑で一緒に大豆の種をまきました。どんどん大きくなり、白い花が咲いて、枝豆ができて…。秋の終わりのある日、すっかり茶色く固くなった大豆がとれました。それをゆでて、わらにつめて、おじいちゃんが作ったのは茶色い納豆! 思い切って食べるととてもおいしくて、「じいちゃん、なっとうってうまいんだ!」しょうたは納豆が大好きになりました。

## 楽しさ見つけの上手なおばあさん

### 『ざぼんじいさんのかきのき』

すとうあさえ/文 織茂恭子/絵 岩崎書店 2000年

ざぼんじいさんの柿の実はずごく甘い。でも誰にも分けずに、いつも一人じめ。隣に引っ越してきたまあばあさんにも、柿のへたしかくれません。でも、まあばあさんは喜んで、柿のへたでよくまわるこまを作ります。柿の葉をもらえば葉っぱ遊び、枝をもらえば焚き火でパンを焼き…。次々と工夫して楽しいことに変えてしまうばあさんには、ざぼんじいさんもついに降参。みんなで柿を食べました!

**母と息子 男の子は強く？ おかあさんを守ってあげる？**

**『まめうしのおかあさん』**

あきやただし/作・絵 PHP研究所 2001年

まめうしくんは、まめつぶくらい小さいこうし。おかあさんが大好き。いつもおかあさんのそばにいたい。ずっとこのままがいいなあ。ある時、まめうしくんは夢をみた。小さくなったおかあさんと一緒に遊んでいると、おおかみがおそってきた。そこで、まめうしくん、大きな体に変身しておかあさんを守ってあげた。「これからは どんときも、ぼくがおかあさんを まもってあげるからね」

**女の子は小さくなければだめ？**

**『森の大きな女の子』**

エヴェリン・ハスラー/文 レナーテ・ゼーリッヒ/絵 服部いつみ/訳 セーラー出版 1998年  
<ドイツ>

人並みはずれて背の高い女の子。「そんなにでかくちゃ、こわがってだれも友達になってくれない」と言われて、森の入り口にある家に一人で暮らしていました。でも隣に小屋を建てた若い森番は、女の子に好意を寄せます。仮装した人たちが集まるカーニバルをきっかけに、女の子は自分の本当の姿を明かすことになりますが、町の人たちにも温かく迎えられ、森番の青年と恋に落ち…。めでたし、めでたし。

**子を手放す母のせつなさ 生活を支える子**

**『かあさんのおめん』**

吉沢和夫/ぶん 北島新平/え ほるぷ出版 1986年

おさよはかあさんと二人暮らし。小さい時から飯炊きなどをしてかあさんを助けますが、いくら働いても暮らしは楽になりません。長者の家に奉公に出されてかあさんが恋しいおさよは、祭りでかあさんそっくりのお面を手に入れて、朝に晩に眺めます。ある時、それを鬼の面にすり変えられて、かあさんの一大事かと身を案じて帰る道中、思いがけず山賊退治をすることに…。遠野に伝わる昔話。

## ママを守る子ども？

### 『まどのそとのそのまたむこう』

モーリス・センダック/さく・え わきあきこ/やく 福音館書店 1983年  
＜アメリカ＞

パパは航海に出てしまい、ママはお庭のあずまやでうつろな目。アイダは赤ちゃんのお守り。でも目を離れたすきに、赤ちゃんはゴブリンたちにさらわれてしまいます。そこで、アイダは妹を助けに、まどのそとのそのまたむこうに出かけていきます。やっとの思いで赤ちゃんを取り戻して帰ってくると、ママのもとにパパから手紙が来ていました。“パパのいさましいアイダが、赤ちゃんとママとをみていてくれることと思います。”アイダはパパの期待に応じてちゃんとやり遂げたのでした。

## 母性って？ 女の幸せ？

### 『女トロールと8人の子どもたち』

グズルン・ヘルガドットィル/作 ブリアン・ピルキングトン/絵 やまのうちきよこ/訳  
偕成社 1993年

女トロールは、大きくてみにくい男トロールに夢中になりました。遠いところに住む男トロールのもとへ通い、愛を交わし、男の子を8人産みました。男トロールにそっくりのみにくい子どもでしたが、女トロールはどの子も力いっぱいかわいがり、心臓が痛くなるほど幸せでした。たっぷりのお乳を夜も昼も飲ませ、その間は男のことを忘れていました。ある日、お乳が止まると、突然男トロールのことを思い出し、彼に子どもたちを見せるために出かけていきました。山を越え、氷河を越えて、会いに行くのですが、願いかなわず、朝日に照らされて石になってしまいました。アイスランドの伝説と神話をもとにしたお話。

## ③数字で見る東村山市民の生活

【講座では】生活が便利になるにつれ、人々の暮らし方もずいぶん変わりました。  
それとともに“家族”の関係は変化したのでしょうか？  
いろいろな統計資料を使って、30年前と現在を比べたり、現在の家族の様子を表やグラフにして紹介しました。

『東村山市の統計』より

	昭和49年	昭和59年	平成 6年	平成16年
人 口	102,313 人	121,188 人	136,095 人	146,100 人
世 帯 (1世帯あたり人数)	33,529 世帯 (3.1 人)	41,618 世帯 (2.9 人)	53,436 世帯 (2.6 人)	63,146 世帯 (2.3 人)
出 生 (1日あたり人数)	2,174 人 (5.9 人)	1,382 人 (3.8 人)	1,392 人 (3.8 人)	1,256 人 (3.4 人)
死 亡	463 人	604 人	878 人	1,111 人
婚 姻	994 組	673 組	910 組	773 組
離 婚	79 組	160 組	235 組	279 組
市内各駅の 乗客総数	19,317 千人	29,468 千人	44,059 千人	44,475 千人

30年前は 電話 1.46世帯に1台  
電報 1日に106件  
時間の流れも違って感じられたでしょうか？

たくさんの方が東村山市に移り住むようになり、市外で働く人も増えました。



このブックリストは、「いきいき大学講座」第4弾『絵本のなかの家族～家族のあり方を見つめよう～』をもとに市立図書館が作成しました。

ここに参加者の皆さんと、このような機会を与えて下さった東村山いきいきシニア、東村山市社会福祉協議会、HUGこどもパートナーズの皆さんに感謝いたします。

市立図書館

<講座等の活動に対する問い合わせ先>

**東村山いきいきシニア**

健康長寿のまちづくり推進室  
(東村山市役所いきいきプラザ4階)

TEL : 390-1203

**東村山市社会福祉協議会**

TEL : 394-6333

**HUGこどもパートナーズ**

表紙イラスト : 崎野弓子

## ブックリスト

# 家族を描いた絵本

平成18年7月

編集・発行 東村山市立図書館

〒189-8501 東京都東村山市本町 1-1-10  
TEL 042-394-2900 FAX 042-394-4107

中央図書館	本町 1-1-10	TEL394-2900
富士見図書館	富士見町 1-7-35	TEL395-7241
萩山図書館	萩山町 2-13-1	TEL393-3172
秋津図書館	秋津町 2-17-10	TEL391-0930
廻田図書館	廻田町 4-19-1	TEL392-2334

HPアドレス <http://www.city.higashimurayama.tokyo.jp>